

避難民、初めて本県に

ウクライナから母子

大仙の男性、身元引き受け

ロシアによる軍事侵攻が続くウクライナから避難した母子が9日、秋田市の秋田空港に到着した。避難民の県内での受け入れは初めて。娘(12)と来県したマリアナ・リチンスカヤさん(41)は「日本に到着できてとてもうれしく思う」と喜び、日本語で「ごとうもありがとうございます」と感謝した。

大仙市で宿泊施設などを経営する佐々木正光さん(71)が身元引受人となる。2人はポーランド経由で昨夜羽田空港に到着。9日午前、佐々木さんに付き添われて秋田空港に降り立った。ロビーにはウクライナ出身のサンガル・ナターリアさん(秋田市)が駆け付け、抱き合って笑顔を見せた。リチンスカヤさんは「感動しています。とても温かく迎えてもらいました」と述べた。佐々木さんは「まずはゆっくりしてもらいたい。日本の生活に慣れてもらい、娘さんの通学先も教育委員会と協議したい」と話した。

ロシアの侵攻後、日本への避難を希望。佐々木さんは30年にわたってウクライナのチェルノブイリ原発事故の被ばく者支援に取り組み、避難民への支援もしていたことから、所属する友好団体を介して2人の紹介を受けた。2人は今後、佐々木さんが経営する宿泊施設で静養するなどして避難生活を送る。佐々木さんは今後もウクライナ支援の募金を行うほか、代表を務める一般社団法人・人財バンクで生活用品などの寄付を受け付けている。問い合わせは同社団法人(801-877-7526)。

避難民の来県を受け、佐竹敬久知事は「平穏な生活を取り戻し秋田での生活に慣れていただくため、県としても大仙市や県国際交流協会などと連携し、必要なサポートを行



記者の問いかけに日本語で「ごとうもありがとうございます」と述べるリチンスカヤさん。左は身元引受人の佐々木さん(9日午前11時10分撮影)。秋田空港(代表撮影)

つていく」とのコメントを出した。(高橋さつき、大久保留衣)